

Vol. 150 2017.3.2

理事長トーク Top Interview

初代理事長の23回忌を迎えて

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



3月8日は健育会グループ創業者 初代理事長 竹川 不二男の命日です。23回忌にあたる今年
は、3月2日、グループの幹部と共に、静岡県富士宮市にある菩提寺まで墓参りに行ってまい
りました。



今年、春に「ねりま健育会病院・ライフサポートねりま」、そして秋に「湘南慶育病院」
の開設が予定されていることを墓前に報告しました。攻めのリハビリを謳う「ねりま健育会
病院・ライフサポートねりま」、未病・抗加齢センター、地域健康マネジメント室など、診
療だけでなく健康に資する部門も充実した「湘南慶育病院」の開設の話は、きっと初代理事
長もお喜びになられると思います。



設立当時の竹川病院(1953年頃)



初代理事長

そもそも「健育会」という名称は、初代理事長が1953年に竹川病院を開設する際に、医療法人の名前として命名しました。この名前には、「医療法人には医療の提供だけでなく、人々の健康増進や病気予防など幅広い役割がある」と考えた初代理事長の「**人々の健康を育む存在でありたい**」という思いが込められています。今年開設となる2箇所の病院・施設はまさに、「健育会」という名を体現するような病院・施設です。またこの考えは、今では当たり前になっているリハビリテーション、介護の先駆けになった考えであり、まさに64年後の私たち健育会グループの姿を言い当てたかのような名前は、先代理事長の先見の明であったと感じています。



診察する初代理事長(1953年頃)



医療法人社団  健育会

初代理事長は、リハビリテーションという概念がまだ一般的でなかった1965年に熱川温泉病院を開院しました。当時としては画期的な「温泉を活用しながらより専門的なリハビリテーションの提供が可能な病院」を創ったのです。また初代理事長はアイデアが豊富で、熱川温泉病院の病院食へ薬膳料理を導入したり、海草風呂を取り入れるなど、医療の枠にとらわれることなく良いと考えることは積極的に導入していく方でした。また、趣味だった釣りで新しい浮きを考案して特許を取得するなど、プライベートでもその才能を発揮していました。



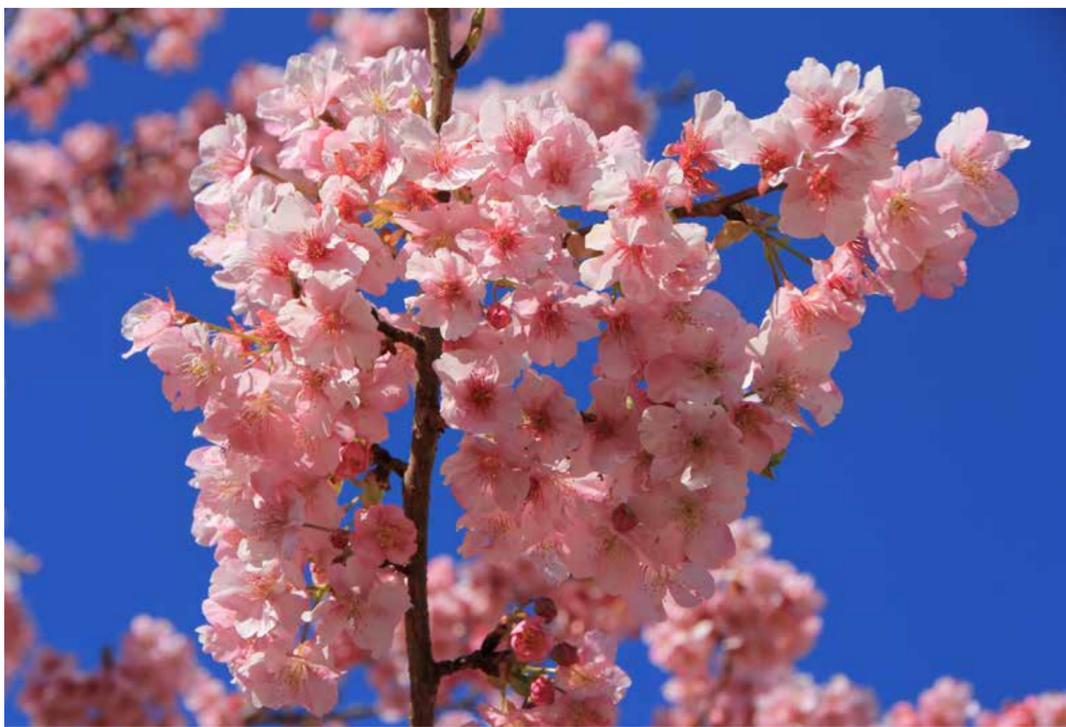
現在の建物になる前の熱川温泉病院(1980年代)



初代理事長(1984年頃)

初代理事長は、病院に関することは、医療はもとより経営においても、全て自分で行なっていました。生真面目な学者気質な一方、1から10まで自分で把握しておきたいと考えておられたようです。そういう意味においては、私とは経営手法が異なる初代理事長でしたが、私が初代理事長から学びとったことは多く、現在の健育会グループの経営や医療への姿勢の中に生きています。

熱川温泉病院の庭に、今年も先代理事長が好きだった河津桜が満開に咲き誇りました。この満開の美しい河津桜を眺めながら、健育会グループのこのチャレンジの年を職員の皆さんとともに成功に導いていくことを、改めて誓いたいと思います。



河津桜が満開の現在の熱川病院